

4 まち・みち環境分野 プロジェクト

分野ビジョン

歩きたくなる たのしいまち・みち

市内の生活環境が整いました。
市内をミニバスが走っています。
公共交通機関や代替交通で気軽に出かけられます。
通勤・通学や買い物も通院も、便利になりました。
外出が楽しみです。
道路は整備され、まちなみは花と緑が豊かです。
たのしく歩けるまちなみです。
市民や観光客は市内をらくらくサイクリングで
生駒の自然や文化を愛する仲間と生駒の魅力の
再発見をしています。

自動車が主要な交通手段になっている生駒では、路上駐車や送迎車両による道路や駅前の混雑が目立っており、超高齢社会を目前にして、誰もが安心して楽しく歩ける道づくりや公共交通の充実したまちづくりへの転換が求められています。

まち・みち環境分野では、自動車中心のまちから、公共交通や自転車利用を優先した環境と人を大切にしたいまちづくりをすすめることが重要であると考えプロジェクトをつくりました。

また、「歩くことはまちに関心を持つことにつながる」「にぎわいを取り戻し、ひと中心のまちづくりの推進力になる」という発想から、生駒のまちの魅力や、住む人、訪れる人が共に発見し、情報を共有・発信していくこともプロジェクトに含めました。このことは、生駒の歴史ある景観や下町情緒あふれる風景、まちなかの緑も含めたコミュニティに対する関心を高め、次世代も住み続けたいと思えるまちづくりにもつながると考えています。

プロジェクト推進にあたっては、都市計画マスタープランをはじめとし、緑の基本計画や景観計画等、関係する各課との政策形成をすすめます。これにより、事業の効率化と生駒の持続可能性をはかる相乗効果が期待できます。

4 まち・みち環境分野

プロジェクト

みんなで歩こう！ 環境まち・みちづくりプロジェクト

プロジェクト

みんなでつくる
緑潤うまち

プロジェクト

みんなでエコドライブ！
きれいに
かしこく
安全に

プロジェクト

家の“300m 圏内”から、
バスや電車に乗れるまちをつくる！

(他分野との連携・発展)

3 せいかつ環境分野

プロジェクト

いこま菜の花いっぱい運動

2 自然環境分野

プロジェクト

遊休農地を優良農地にしよう！

プロジェクト

自転車愛用者
増大計画！！

プロジェクト

バスも電車もどこまでも
自転車でプロジェクト

プロジェクト名	みんなで歩こう！環境まち・みちづくりプロジェクト
ビジョン	歩いて生駒が好きになり、人とふれあい 明日の活力が生まれるまちにする
目的 <small>何のためにする活動か</small>	歩く楽しさを市民に発信し、市民が気づくことで人の賑わいをつくる。 歩きたくなる楽しいまち・みちをつくる。 自家用車に頼らない生駒をつくる。
主体 <small>誰がするのか（協力が必要な人・団体も含めて）</small>	市民、計画推進組織（仮称）、商店街、商工会、行政（環境政策課、生活安全課、産業振興課、都市計画課、生涯学習課）、生徒・学生
対象 <small>どのような人、団体に向けた活動か</small>	市民、商店街、生徒・学生、生駒に興味を持ってくれる人々
効果 <small>どのような効果や影響が期待できるか</small>	<ul style="list-style-type: none"> • いろんな歩き方を楽しむ人が増えている（車だけに頼らないライフスタイル）。 • 人と車のすみ分けができて生駒（駅周辺のマイカーの動線の整理も） • 商店街が人で賑わう。 • スローライフスタイルが広がる。

活動内容

第1段階 集める：情報集めとプロジェクトチームの仲間づくり

- 1 計画推進組織（仮称）にプロジェクトチームを設置する。
- 2 まち・みち情報収集
まちの普段の顔、つないできた知恵・工夫、歴史、文化、まちの大切なもの、大事にしたいこと、お気に入りの散歩道、子どもの遊び場、エコ情報、季節ごとの見どころなど
- 3 歩きにくい、または危険な歩道の情報収集
- 4 集まった情報をもとに調査ハイキングを実施し、情報を検証しながら新たな情報を収集するとともに、プロジェクトチームのメンバーを募る。

第2段階 整理する：集めた情報を、年代別や暮らし方などに分類し、整理する

- 1 利用する目的に合わせて整理し、利用できるような情報にする。
駅周辺の目的別歩きマップなど
- 2 情報を提供してくれた人々・グループをもとに、環境まち・みち情報ネットワークを形成し、情報の集中・共有を図る。

第3段階 発信する：誰もが楽しめる環境まち・みちづくりをめざし、情報を発信する

- 1 歩く歩くイベント・コンテストの実施
エリアや時間を設定し、小規模の歩行者ゾーンで、催しものや模擬店を出して交流する。
市場跡地を市民交流の場にするなど……。
市内の小・中学生対象に：生駒への愛着を育てるイベント（子どもの作る環境マップコンテスト・子どもの地域貢献を育むイベント）を実施
- 2 電車の駅やバス停での歩く歩く情報を掲示
- 3 歩きにくい、または危険な歩道の情報は、交通審議会（仮称）に提案する（「家の“300m圏内”から、バスや電車に乗れるまちをつくる!」プロジェクトを参照）。
- 4 市の広報を活用

第4段階 まちあるき案内人の誕生：成果の確認

プロジェクトチームの一員が『まちあるき案内人』になり、生駒歩きガイドが発足する。

課題

- » 歩きたくなる楽しいまち・みちをつくらう。
- » 自家用車に頼らない生駒をつくらう。

問題

- 趣あるまちなみや商店街が活かされていない。
- まちなかの環境の悪化

残したいまち・みち環境

宝山寺参道入り口



生駒駅南口からすぐの宝山寺参道へ続く道。焼餅を売る店など、昔ながらの景色であたたかい気持ちになります。みんなで親しめる、こんな場所をもっと掘り起こします。

竜田川の桜並木



いろんな人々が春の訪れを楽しみにしています。見ているだけでもうれしくなる、こんな景色をいつまでも大切にしたいですね。

宝山寺の石畳の参道



参道中腹の石畳。この石畳は幅も広く、思い思いのペースで歩くことができます。歩いて楽しい道が残っています。



矢田丘陵遊歩道

生駒の南北を貫く矢田丘陵。一日かけてのハイキング、ぶらっと散歩など、いろんな楽しみ方ができる遊歩道が整備されています。お気に入りの場所はどこでしょうか？

往馬大社



一分駅か菜畑のバス停から歩くと、うっそうとした木々ですぐにわかり、表通りの車の喧騒がうそのような静かな時間が楽しめます。私たちの身近に、他にも素敵な場所がありそうです。

稲蔵神社

住宅地に囲まれた異空間スポット？そんな雰囲気のある不思議な神社です。ひと昔前の生駒っ子なら他にも探検気分満点のスポットを知っているのではありませんか？



プロジェクト名	みんなでつくる緑潤うまち
ビジョン	「庭」も「みち」も「公園」も、みどりのまちをみんなでつくる
目的 何のためにする活動か	緑潤いある街を形成し、歩きたくなるたのしいまち・みちをつくる。
主体 誰がするのか(協力が必要な人・団体も含めて)	計画推進組織(仮称)、市民・店舗主、緑の市民委員会、自治会、事業者、行政(みどり推進課)
対象 どのような人、団体に 向けた活動か	市民、事業者、自治会(老人会、婦人会)、学校
効果 どのような効果や影響 が期待できるか	<ul style="list-style-type: none"> 歩くことによる自家用車の利用減少、緑化によるCO₂の吸収 美しい景観により心が和む、地域のコミュニティの活性化

活動内容

第1段階 花と緑の景観まちづくりコンテスト作品マップをつくる。

推進組織や関連市民団体などで、「花と緑の景観まちづくりコンテスト」応募者の緑化ポイントをマップにする。

広報紙やホームページ等で「みどり自慢」として事例を紹介する。

勉強会・ワークショップを行うことで関心を高め、緑化ポイントを増やすとともに仲間づくりをする。コンテスト応募者の多い地域を中心に実施

第2段階 緑化スポット(点)を緑化エリア(面)に。

1 緑化スポット(点)を緑化エリア(面)に拡大していくため、地域の取り組みとなるよう展開。

第1段階の取り組みをとおして個人のスペースから周辺の植え込み(花、木)へ広げていく。地域ぐるみで共有スペースの緑化や街路樹の維持管理をするための勉強会やワークショップを開催する。

地域でのつどいの核となる「公園」へと発展させる。

地域内の事業者(店舗など)の緑化プロジェクトへの参加を促すとともに関連行事への協力依頼

敷地内の空きスペースへの緑化などの呼びかけ

勉強会やワークショップ、園芸教室など地域の活動への参加

プロジェクトや緑化をすすめる市民への資材・資財の提供依頼

周辺の道路・公園などの「緑」の管理(事業者が公共的な空間の「緑の里親」になるなど)

緑化活動に参加した事業者(店舗など)を市民に知らせることで、事業者のさらなる参加を促進する(周知の方法:緑化スポットへの案内板設置、勉強会・教室の資料、散策マップへの広告掲載(店舗の特徴や事業者のメッセージ、店舗へのアクセス方法や店のアピール等))

2 緑化スポットが集中している地域を【モデル地域】に指定する。

第3段階 市全域を緑化エリアに 【モデル地域】から市全域へ。

1 モデル地域活動からの波及効果を市全域へ展開

「コンテスト」の評価項目に「地域への広がり」や、「歩くスペースとしての認知」、「緑化と歩く人がつながるしかけ」などの項目を加えていくことにより、緑化の考え方を「点」から「面」へ発展させる。

2 活動している市民・地域・事業者などを支えていく・連携していく仕組みづくり

地域ごとの緑化の取り組みに対応する人材バンクの設置など

コンテスト参加者やモデル事業参加者が登録し、地域ごとの緑化を支援する仕組みづくり

『緑化に対する「質問」や「会話」が双方向でできる場』『活動のお手伝いをお願いできる場』などのネットワーク化

課題

» 歩きたくなるたのしいまち・みちをつくらう。

問題

・歩くためのみちに緑がなく、歩く気にならない。
・通過するためのみちになっている。



なったらいいなあ 花と緑でいっぱいのもち
まちも！ みちも！ 公園も！ 学校も！！

地域から始まる
取り組みの数々



第1回花と緑の景観まちづくりコンテスト優秀作品から

プロジェクト名	家の“300m 圏内”から、バスや電車に乗れるまちをつくる！
ビジョン	外出するとき、だれでも・どこからでも乗れる交通
目的 <small>何のためにする活動か</small>	<p>乗りやすい公共交通機関づくり（市民の移動手段を便利にする）を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内のいずれの地域からも公共交通機関を利用して目的地に移動できる。 健康で元気な人だけでなく、高齢者・障がい者・傷病者・乳幼児を抱えた人・運転免許を保持しない人がいつでも・市内どこからでも公共交通機関を利用して外出できる。
主体 <small>誰がするのか（協力が必要な人・団体も含めて）</small>	計画推進組織（仮称） 市民、行政、交通事業者、警察、自治会、事業者、医療施設、公共施設等
対象 <small>どのような人、団体に向けた活動か</small>	<ul style="list-style-type: none"> 通勤・通学・通院・買い物や諸団体の諸活動で、市内外の目的地に行くために移動する人々 高齢者・障がい者・傷病者・乳幼児を抱えた人・運転免許を保持しない人 交通事業者・諸団体・事業者・医療施設・公共施設等
効果 <small>どのような効果や影響が期待できるか</small>	<ul style="list-style-type: none"> バスや電車の利用者が増える CO₂削減、化石エネルギーの節約、交通渋滞・迷惑駐車が減る。 すべての市民が地域で安心して外出し、暮らすことができる。 ・高齢者が気軽に外出できる。 地域の交通問題を話し合う場ができる。 自家用車での移動で気づかなかった人々とのコミュニケーションがあり、自然に触れ合える。

活動内容

第1段階 調査：「市内交通を調べる会」で環境交通調査を行い、市内の交通事情を調べる。

1 公共交通機関利用実態調査

調査協力者を募集し、公共交通機関の利用状況（目的・経路・所要時間・運賃）などから、交通事情の不便さの実態をつかむ。

2 主要駅周辺の交通実態調査 送迎車両、違法駐車車両、通過車両等の実態、バスの運行障害状況など

3 調査結果から、公共交通機関の不便さと、自家用車の利用と渋滞とともにCO₂排出量の増加につながる実態を明らかにする。

第2段階 調査報告会の開催：生駒市の環境交通と市民の暮らしをみんなで共有する。

1 調べる会の調査報告会を実施し、交通問題を共有する。

2 既存交通機関の有効利用、移動が不便な地域の交通網の整備に向け、交通関係機関とともに、市民が自ら地域の環境交通問題に参画することを訴えかけ、環境交通協議会設立に向けてメンバーとしての参加をよびかける。

第3段階 環境交通協議会の設置：既存の公共交通機関の充実・改善を図る。

1 実行委員会（市民）、行政、交通事業者、警察、自治会、事業者、医療施設、公共施設などで環境交通協議会を設置する。

2 公共交通機関の利用促進と徒歩や自転車での移動に向けた啓発活動を実施する。 電車とバスを組み合わせた公共交通機関の便利な使い方（ルート・所要時間・費用・代替交通など）について看板の設置等、情報発信

3 駅前の交通渋滞緩和の方策（通行制限・車の利用制限・時間帯制限等）を検討し、渋滞緩和とバスの定時運行を図る。

第4段階 移動が不便な地域の交通手段の充実：住民が必要とする地域交通の実現を図る。

1 環境交通協議会は、移動が不便な地域の中から緊急性等を検討し、既存の公共交通機関や自家用車等の代替交通の実現をめざすモデル地域を選定し、対象地域住民と環境地域交通協議会を設置する。

代替交通：コミュニティバス・デマンドバス・乗り合いタクシー・事業者との共同運行バスなど

2 環境地域交通協議会は、地域住民との協働により、財政面を検討しながら、地域住民が支える地域交通の実現を図る。

3 モデル地域での代替交通運行を通じて、他の移動が不便な地域からも代替交通実現の気運を盛り上げ、支援する。

課題

- › 公共交通を利用して目的地に行くのを便利にする。
- › 交通空白地域をなくす。
- › 交通弱者をなくす。

問題

- ・ 市内各地から駅や諸施設に行くのに不便
- ・ 移動方法がないか、もしくは不便な地域がある。
- ・ 高齢者や障がい者や怪我をした人、乳幼児を抱えた人、車を運転できない人の移動が困難
- ・ 送迎車両で、駅前の交通渋滞が頻発

市内公共交通路線図

公共交通機関の利用促進と、移動が不便な地域の交通網の整備をめざします。

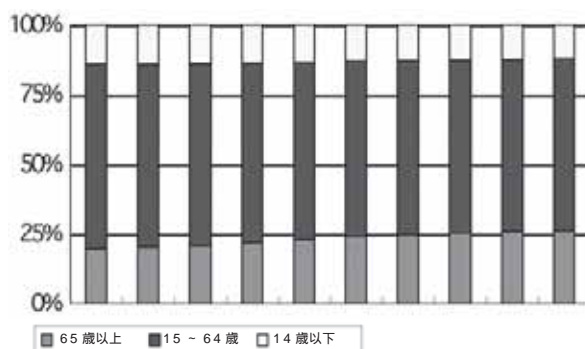


電車やバスだけでは不便な地域もある



どこからでも便利な公共交通をめざして

今後は高齢化の進展により、コミュニティバスを始めとする代替交通など、ますます便利な公共交通の整備が大切になります。



市コミュニティバス「たけまる号」



平成 19 年度乗車実績：49,548 人

資料：住民基本台帳、外国人登録及び第 5 次生駒市総合計画人口フレームから作成

プロジェクト名	自転車愛用者増大計画 !!
ビジョン	自転車が乗りやすいまち 生駒に

目的 <small>何のためにする活動か</small>	自転車の利用をしやすいするための制度づくり マイカー利用だけに頼らない生駒のライフスタイルを広める。
主体 <small>誰がするのか(協力が必要な人・団体も含めて)</small>	市民、計画推進組織(仮称)、行政(生活安全課)、駐輪場運営組織、近隣の自転車専門店、警察など
対象 <small>どのような人、団体に向けた活動か</small>	市民全般、通勤・通学者、買い物客、観光客
効果 <small>どのような効果や影響が期待できるか</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・マイカーの利用削減によるCO₂の削減効果、自転車の見直しによるスローライフの浸透 ・高齢者医療費削減、放置自転車の減少、マイカー通過客の減少により商店街の活性化

活動内容

第1段階 仲間づくり自転車修理大会：自転車修理ボランティアの募集、修理希望者の募集

- 1 自転車修理講習会を実施し、自転車の修理技術、乗車マナーの普及・啓発を図る。
- 2 講習会の参加者を自転車修理ボランティアとして登録する。

第2段階 自転車預かり場の整備：「自転車預かり場」を整備し、自転車の利用を促す。

- 1 駐輪場の管理者に自転車修理ボランティアを配置し、実費程度の費用で自転車の整備を行う。市全体の駐輪場にサービスを拡大していく。
整備内容(案)：空気入れ、虫ゴムの交換、油差し、各部の調整
- 2 駐輪場用地の提供を促す制度(税制優遇など)を検討し、駅及びバス停周辺の遊休地を利用した駐輪場を整備する。
- 3 駐輪場使用者を対象としたバス利用に係る割引料金制等により、駐輪場の利用促進を図る。

第3段階 電動アシスト自転車の普及促進

坂の多い地形での自転車利用を促進するため、電動アシスト自転車利用者のための補助制度等を検討する。

第4段階 レンタサイクルの活用：自転車を、朝夕は駅までの通勤・通学に、昼間は観光・買い物に。自転車を保有することから利用することへと目的を転換し、自転車を有効に活用する。

レンタサイクル制度の駐輪場を作り、昼間は観光用に、夕方には返却された自転車を帰宅用に。

第5段階 自転車シェアリング制度の構築

以上の活動を連携し、生駒市全域で会員制の廉価な自転車利用システムを構築し、どこでも借りられて、どこでも返却できる自転車利用システムを構築する。

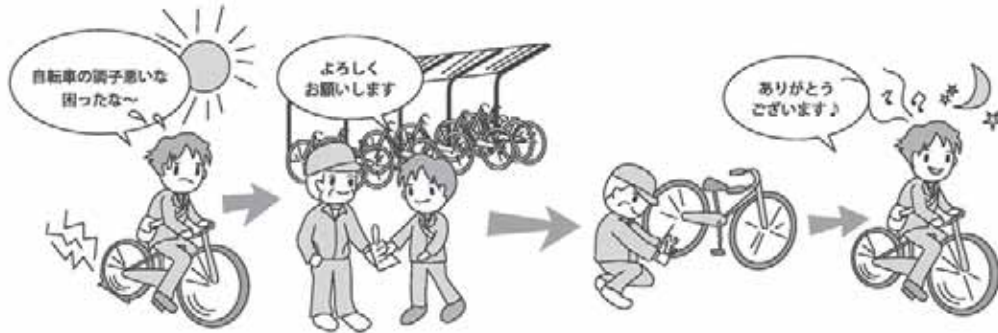
課題

- » 歩きたくなる楽しいまち・みちをつくろう。
- » 自家用車に頼らない生駒をつくろう。

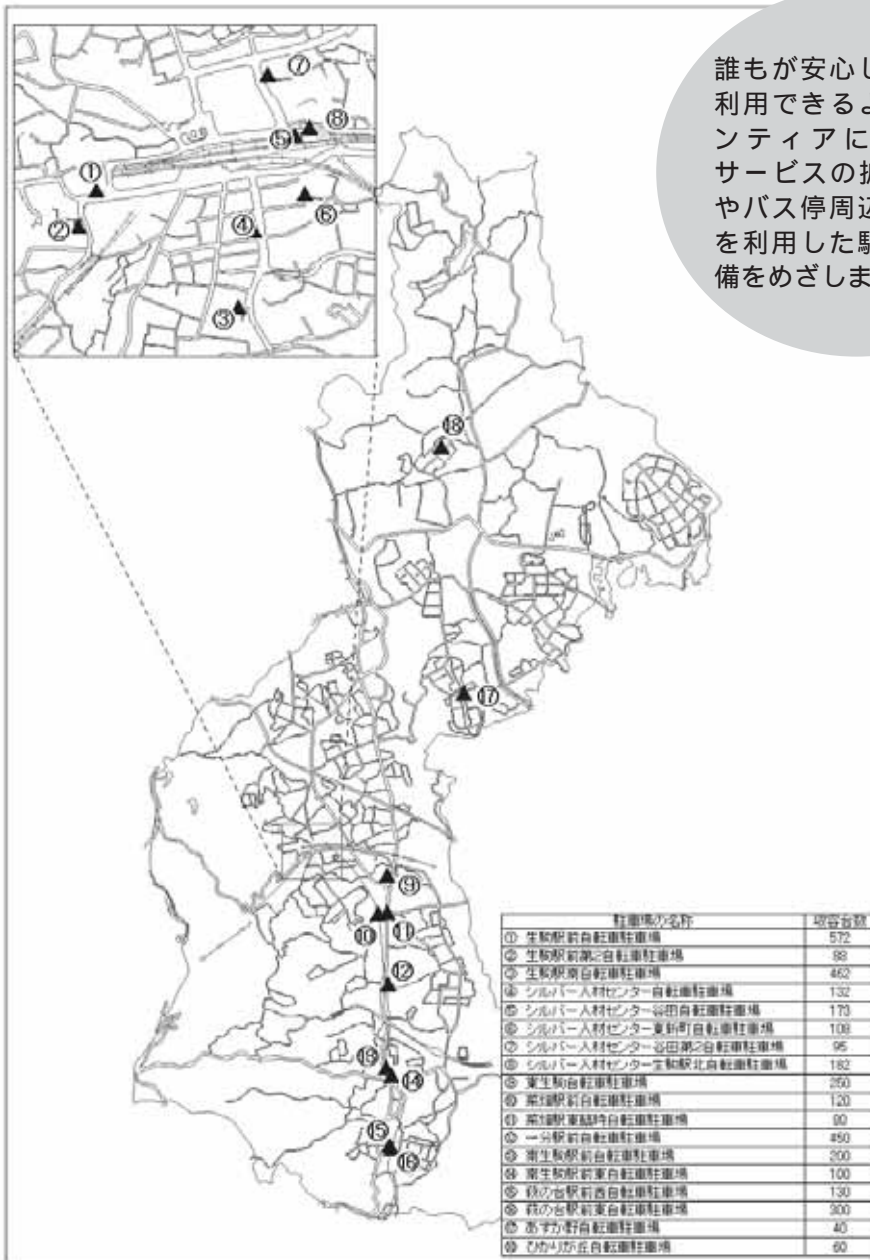
問題

- ・自転車は交通手段として理解されていない。

修理サービス付きの自転車駐輪場だとこんなことができます！



市営駐輪場整備状況



プロジェクト名	バスも電車もどこまでも自転車でプロジェクト
ビジョン	自転車が乗りやすいまち 生駒に
目的 <small>何のためにする活動か</small>	坂道の多い生駒で自転車が交通手段として活用できるハード面を整備する。 マイカー利用だけに頼らない生駒のライフスタイルを広める。
主体 <small>誰がするのか(協力が必要な人・団体も含めて)</small>	市民、自転車を趣味とするサークル、計画推進組織(仮称)、行政(生活安全課、土木課、都市計画課)、警察、バス・鉄道事業者など
対象 <small>どのような人、団体に向けた活動か</small>	市民、通勤・通学者、買い物客、観光客
効果 <small>どのような効果や影響が期待できるか</small>	・CO ₂ の削減、スローライフの浸透、健康増進、放置自転車の減少、商店街の活性化

活動内容

第1段階 プロジェクトチームの結成：自転車愛用者増大計画に基づいたチーム

- 1 自転車を交通手段として活用できるハード面を整備するために、自転車を利用する市民を巻き込んで議論を行い、「生駒市自転車道(レーン)整備委員会(仮称)」を設置する。
市民、自転車を趣味とするサークル、計画推進組織(仮称)、行政、警察、バス・鉄道事業者など
- 2 既存道路の走りやすさ、走りにくさを体感してもらうイベントを実施する。

第2段階 バス&サイクルの普及

バスの停留場に駐輪場を作る方法と並行して、自転車と人が一緒に乗れるバス車両導入を図る。
「急な雨」や「疲れ」、「荷物」、「坂道」など柔軟に対応でき、自転車をもっと気軽に利用できるようにする。

第3段階 自転車専用レーンを整備

- 1 自転車利用促進のために、自転車専用レーンを試行し、専用レーンへの理解を深める。
- 2 モデル路線を選定し、自転車専用レーンを実現する。
- 3 他地域にも自転車専用レーンを拡大する。

第4段階 サイクル&トレインの実現

自転車のまま乗り込める電車車両を1両つなぎ、目的地での移動性を確保する。
自転車専用レーンの整備とも連携することにより、通勤・通学時の自動車利用を「自転車&公共交通機関」にシフトさせることをめざす。

課題

» 環境にやさしく、健康作りにも有効な自転車を交通手段に組み込もう。

問題

・自転車は交通手段として理解されていない。

自転車先進国で整備がすすむ専用道路の事例（ドイツ ミュンスター市）



自転車が広く普及し、自転車専用道路が整備されている



左折する自転車のための停車空間



自転車の車内持ち込みも可能



写真提供：
NPO 法人環境市民
枚本 育生氏

国内でも自転車の電車内持ち込みが実施されています



資料：近江鉄道㈱ホームページから

自転車の普及のため、
生駒市でも実現可能な
基盤整備を検討します。

プロジェクト名	みんなでエコドライブ！きれいに かしこく 安全に
ビジョン	エコドライブ（ひと・まち・環境にやさしい乗り方・環境にやさしい自動車選び）がすすんだまちに
目的 <small>何のためにする活動か</small>	市民一人ひとりがひと・まち・環境にやさしいエコドライブに取り組むこと
主体 <small>誰がするのか（協力が必要な人・団体も含めて）</small>	計画推進組織（仮称）、行政（総務課、生活安全課）、警察、エコドライブスタッフ、事業者、市民
対象 <small>どのような人、団体に 向けた活動か</small>	全市民・事業者
効果 <small>どのような効果や影響 が期待できるか</small>	・エコドライブの徹底・不要不急時以外の車の使用見直しを通じた、CO ₂ 削減・化石エネルギーの節約。エコドライブの徹底による安全運転が広がる。

活動内容

第1段階 エコドライブリーフレット・ガソリン家計簿の作成

- 1 計画推進組織（仮称）でのエコドライブ学習会、エコドライブ体験会を実施する。
省エネ運転・アイドリングストップ等を学んで、実際に運転する。
- 2 エコドライブパンフレットを作成する。
- 3 ガソリン家計簿（走行距離、消費燃料、ガソリン費用、使用回数/月……）を作成する。

第2段階 「エコドライブ宣言」ドライバーの呼びかけ

ガソリン家計簿に取り組み、エコドライブ宣言をするドライバーに「エコドライブ宣言ステッカー」を交付

第3段階 エコドライブ実践教室 エコドライブスタッフの育成

- 1 エコドライブ実践教室参加者募集（事前ガソリン家計簿、車両データの提出）
- 2 エコドライブ実践教室前後のガソリン家計簿の提出に協力していただいた一般ドライバーをエコドライブスタッフに認定する。
- 3 エコドライブスタッフ認定証の発行

第4段階 エコドライブキャンペーンの実施

- 1 計画推進組織（仮称）とエコドライブスタッフによる、エコドライブキャンペーンを実施
- 2 ガソリン家計簿とエコドライブ宣言の呼びかけを実施し、「エコドライブ宣言ステッカー」を交付する。

第5段階 事業者との連携推進

- 1 業務で車両を利用する事業者呼びかけ、燃費計（又はデジタルタコグラフ）を導入して率先してエコドライブに取り組むとともに、広報に協力する事業者を募集する。
- 2 燃費計（又はデジタルタコグラフ）を導入した車両を対象として、「お手本ドライブステッカー」を交付する。
- 3 お手本ドライブ事業者を通じたエコドライブ技術の普及及び広報を図る。
- 4 お手本ドライブ事業者と、車両からの排出量規制についての協定等を検討する。

第6段階 環境にやさしい自動車の普及促進

環境にやさしい自動車について調査をすすめ、普及促進のための補助制度等を検討する。

課題

- ・ アイドリングストップ、エコドライブをする市民・事業者を増やすこと

問題

- ・ アイドリングストップやエコドライブをする市民&事業者が少ない。
- ・ 地球温暖化

デジタルタコグラフでエコドライブの推進（事業者による取り組み）

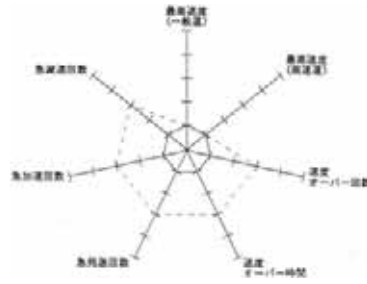
デジタルタコグラフを車両に設置



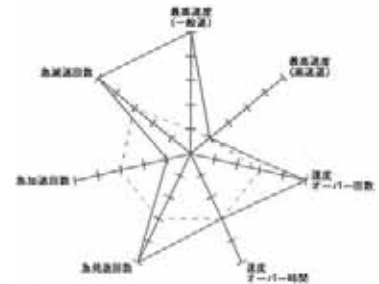
↓ データはパソコンで管理



良い例



悪い例



➔ 運転速度、急発進、急加速など、運転状況を確認し、エコドライブ促進のために、ドライバーの意識と技術の向上を図る。

エコドライブ 10 のすすめ（市民による取り組み）

取り組み項目	効果
ふんわりアクセル「eスタート」	普通の発進より少し緩やかに発進するだけで 11%程度燃費が改善
加減速の少ない運転	車間距離を詰めたり、速度にムラのある走り方をすると、加減速の機会も多くなり、その分市街地で 2%程度、郊外で 6%程度燃費が悪化
早めのアクセルオフ	エンジンブレーキを使うと、2%程度燃費が改善
エアコンの使用を控えめに	外気温 25 の時に、エアコンを使用すると、12%程度燃費が悪化
アイドリングストップ	10 分間のアイドリングで、130cc の燃料を浪費
暖機運転は適切に	5 分間暖機すると 160cc 程度の燃料を浪費
道路交通情報の活用	1 時間のドライブで、道に迷って 10 分間余計に走行すると 14%の燃費悪化に相当
タイヤの空気圧をこまめにチェック	タイヤの空気圧が適正値より 50kPa 不足した場合、市街地で 2%程度、郊外で 4%程度燃費が悪化
不要な荷物は積まずに走行	100kg の不要な荷物を載せて走ると、3%程度燃費が悪化
駐車場所に注意	交通の妨げになる駐車で、自動車の平均車速が時速 40km から 20km に落ちると、31%程度の燃費悪化に相当

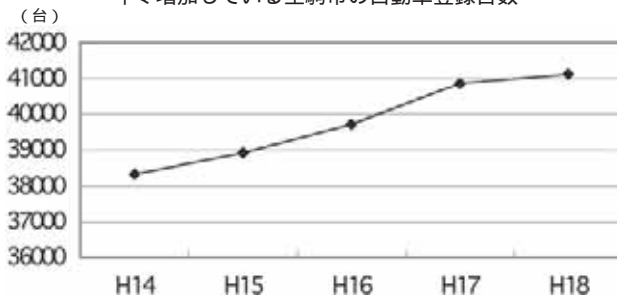
資料：エコドライブ普及連絡会「エコドライブ 10 のすすめ」から作成



個人の車に設置できる燃費計

資料：社団法人 日本自動車連盟（JAF）ホームページから

年々増加している生駒市の自動車登録台数



資料：近畿運輸局奈良運輸支局

